

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
平成27年度事業報告書

I 活動報告

平成27年度(平成27年4月1日～平成28年3月31日)は、国際大会はIFAFシニア世界選手権2015の一大会のみ開催され、シニア日本代表チームはアメリカ代表チームと2回対戦し、銀メダルを獲得した。

日本国内における競技人口は、平成26年度に較べて若干の増加が認められた。チーム数がわずかに減少する中で、トップクラスのチームの選手数が増えたことから、全体として競技人口は微増となった。

新たに、二つの競技団体(日本シニアアメリカンフットボール協会と日本女子アメリカンフットボール協会)がJAJFAに加盟した。

1) 日本体育協会公認指導者養成事業

定款第5条第1項第1号に関連する事業として、公益財団法人日本体育協会(以下「日体協」という。)が主催する公認指導者養成事業の一つとして、日本体育協会からの委託に基づいてアメリカンフットボール競技に関する指導員資格の専門科目講習会を開催した。

平成27年度は、関東、関西、東北、九州の各地区において30講座を開催し延べ66名が受講、49名が合格した。平成27年度末の資格保有者数は233名である。

また、更新時期を迎える公認指導者資格保有者のために、資格更新に必要な義務研修を計2回開催し、延べ31名が受講した。

2) コーチクリニック、フットボール教室

定款第5条第1項第1号に関連する事業として、対象選手を三つの年齢カテゴリー(ジュニア/U-19、カレッジ/大学生、シニア/社会人)に分け、日本代表チームのコーチを中心とするアカデミーコーチングスタッフによる一貫した指導体制で基礎技術を指導する「JAJFA フットボールアカデミーキャンプ」を実施した。また、頭部傷害を少なくするために、ヘルメットではなく肩で相手に当たることを推奨する「ヘッズアップフットボール(HUF)」に特化したアカデミーキャンプも実施した。計14回開催し、延べ1174名が参加した。

- ・平成27年6月7日：HUFアカデミーキャンプ(関東中学生)52名参加
- ・平成27年6月20日：HUFアカデミーキャンプ(関東高校)116名参加
- ・平成27年6月21日：HUFアカデミーキャンプ(関西大学)85名参加
- ・平成27年6月28日：HUFアカデミーキャンプ(関東大学)84名参加
- ・平成27年6月28日：HUFアカデミーキャンプ(関西高校)46名参加
- ・平成27年7月4日：HUFアカデミーキャンプ(東北大学)48名参加

- ・平成27年7月31日：HUFアカデミーキャンプ（関東高校）50名参加
 - ・平成28年1月9日：HUFアカデミーキャンプ（関東小学生）25名参加
 - ・平成28年2月28日：HUFシニアアカデミーキャンプ（関東大学）166名参加
 - ・平成28年3月5日：カレッジフットボールアカデミーキャンプ（関西大学）54名参加
 - ・平成28年3月11日：HUFアカデミーキャンプ（中四国大学）161名参加
 - ・平成28年3月12日：カレッジフットボールアカデミーキャンプ（関東大学）83名参加
 - ・平成28年3月19日：U-19フットボールアカデミーキャンプ（関東大学・高校）111名参加
 - ・平成28年3月26日：U-19フットボールアカデミーキャンプ（関西大学・高校）93名参加
- フットボール教室事業はスポーツ振興くじ助成を受け運営いたしました

3) 川崎市まちづくり推進連絡調整会議参加

定款第5条第1項第1号及び第10号に関連する事業として、川崎市のまちづくり推進連絡調整会議に参加し、アメリカンフットボールを活用した川崎市のまちづくりと、川崎市におけるアメリカンフットボールの普及発展に努めた。

川崎市がアメリカンフットボールの活動拠点として位置付け、観客席ならびに人工芝フィールドの改修工事に2年がかりで取り組んできた富士通スタジアム川崎が平成27年3月に完成し、平成27年度から本格的に運用開始された。平成27年度のアメリカンフットボールの主要競技大会が終了した段階で、川崎市関連団体、川崎市市民団体、アメリカンフットボール競技団体が一体となって、川崎市行政の協力を得て、富士通スタジアム川崎を活用したまちづくりを推進するために、「アメリカンフットボールを活用したまちづくり推進連絡調整会議（議長：間野義之早稲田大学スポーツ科学学術院教授）」を発足することとし、平成28年2月15日、平成27年度の第1回連絡調整会議を開催した。連絡調整会議においては、競技団体が富士通スタジアム川崎の観客席を埋め尽くす「満員試合」を増やしていきたいとの意向が示され、商店街、市民団体、指定管理者など関係者が協力してその目標を達成し、競技の普及とアメリカンフットボールを活用したまちづくりを推進していくことを合意した。

4) 東北復興支援試合

定款第5条第1項第1号、第10号及び第11号に関連する事業として、一般社団法人日本社会人アメリカンフットボール協会(Xリーグ)及び東北学生アメリカンフットボール連盟と連携し、Xリーグが東北地方で開催する東北復興支援試合を核とするアメリカンフットボールの普及活動と東北復興支援事業の展開を模索したが、平成27年度は東北復興支援試合を実施することができなかった。

5) アメリカンフットボール日本選手権「ライスボウル」の開催

定款第5条第1項2号に関連する事業として、アメリカンフットボール日本選手権「第69回ライスボウル」を主催した。

5年ぶり8回目の出場となった大学チーム立命館大学と7年ぶりの出場となる社会人チームパナソニックインパルスの対戦となった。7年前の対戦で立命館大学に13対17で敗れたパナソニックが雪辱を期して臨んだ試合は、白熱した試合展開となり、最終プレーで、立命館大学が決まれば同点となるフィールドゴールを失敗し、パナソニックが22対19で勝利をつかんだ。ところが、最後のプレーでパナソニックに反則がありこれが見逃されていたことがソーシャルネットワークや新聞等で問題視されたが、JAF A 会長名で反則の見落としがあったことを詫びるとともに試合結果は覆されないことを公式発表し、それ以上の騒ぎには発展しなかった。

観客数は前回よりさらに増えて31,914人となり、正月3日の恒例行事としてフットボールファンの中で定着してきたと評価される。

6) 高校生連盟・中学生連盟の主催試合に対する後援

定款第5条第1項第2号に関連する事業として、日本高等学校連盟が主催する第46回クリスマスボウル(平成27年度高等学校日本選手権大会決勝戦、平成27年12月23日開催)と第5回ニューイヤーボウル(東西地区選抜高等学校アメリカンフットボール対抗戦:平成28年1月10日開催)を後援した。

7) 国際試合の主催・後援

定款第5条第1項第3号に関連する事業として、東日本大震災の後、米軍が OPERATION TOMODACHI(ともだち作戦)と称して東北に物資の補給などの支援活動を展開したことをきっかけとして、一般社団法人関東学生アメリカンフットボール連盟が主催した第5回 TOMODACHI BOWL を後援した。

- ・第5回 TOMODACHI BOWL (U-19 米軍基地代表チーム 対 U-19 関東代表チーム)

日程:平成28年3月13日

会場:アミノバイタルフィールド

結果:U-19 米軍基地代表チーム 26-6 U-19 関東代表チーム

8) 国際試合へのチーム派遣

定款第5条第1項第3号に関連する事業として、国際試合に日本代表チームを派遣した。

- ・第5回 IFAF シニア世界選手権

日程:平成27年7月8日~7月18日

会場:米国オハイオ州 CANTON Tom Benson Hall of Fame Stadium

結果:準優勝

最終順位:アメリカ、日本、メキシコ、フランス、オーストラリア、韓国、ブラジル

世界選手権チーム派遣事業はスポーツ振興基金助成を受け運営いたしました

9) 国際試合への審判員の派遣

定款第5条第1項第3号に関連する事業として、以下の国際試合に審判員を派遣した。

- ・第4回 IFAF U-19 世界選手権オセアニア大陸予選 オーストラリア対ニュージーランド

日程：平成27年7月11日

会場：オーストラリア・ブリスベン Sunshine Coast Stadium

- ・第5回 IFAF シニア世界選手権

日程：2015年7月8日～7月18日

会場：米国オハイオ州 CANTON Tom Benson Hall of Fame Stadium

10) 競技規則の制定・告知・頒布

定款第5条第1項第4号に関連する事業として、競技規則委員会（平成27年3月14日開催）の決定に基づき、アメリカンフットボール競技の2015年度公式規則について、2014年度公式規則からの変更について加盟団体に周知するとともに、2015年度公式規則を発行して頒布した。

11) 医科学研究会

定款第5条第1項第5号に関連する事業として、平成28年2月21日、医科学研究会を開催した。アメリカンフットボールに密接に関連する医科学分野の医師、トレーナー、指導者が一堂に会して、当該年度に発生した重大事故、医科学分野における新たな知見等の情報を持ち寄って、選手の安全確保のための情報共有、意見交換を行った。また、加盟競技統括団体の所属チームに外傷報告書を提出してもらい、安全対策委員会においてデータを集計し、得られた知見については医科学研究会で報告した。参加者は、学生65名、社会人73名、計138名。

12) ドーピング検査

定款第5条第1項第5号に関連する事業として、三大ボウルゲーム（甲子園ボウル、ジャパックスボウル、ライスボウル）においてドーピング検査を実施した。ドーピング検査は、専門機関である日本アンチ・ドーピング機構（JADA）に委託して行った。検査の結果はすべて陰性であった。

ドーピング検査事業はスポーツ振興くじ助成を受け運営いたしました

13) アンチ・ドーピング講習会

定款第5条第1項第5号に関連する事業として、以下の日程でアンチ・ドーピング講習会を開催した。多くの指導者、選手はアンチ・ドーピングの主旨は理解しているものの、禁止薬物に関する知識、持病等で処方を受けている薬物の事前申請（TUE）、居場所情報提出などの手続きなどについて十分な知識を有しているとは言い難く、啓蒙活動の一環として講習会を開催した。

- ・第5回 IFAF シニア世界選手権に出場する日本代表選手を対象とする講習会の開催

- (1) 日時 平成27年5月24日(土) 10:00~10:30
- (2) 場所 東京都江東区猿江 東京ガス深川グラウンド内施設
- (3) 対象者 日本代表候補選手およびメディカルスタッフ
- (4) 出席者 選手81名、メディカルスタッフ2名
- ・日本選手権出場対象チーム、アンチ・ドーピング講習会(関東開催)
 - (1) 日時 平成27年10月31日(土) 18:30~19:40
 - (2) 場所 東京都品川区東大井 大井町きゅりあん会議室
 - (3) 対象者 第69回日本選手権出場対象チームメディカルスタッフ
 - (4) 出席者 9チーム 20名
- ・日本選手権出場対象チーム、アンチ・ドーピング講習会(関西開催)
 - (1) 日時 平成27年11月1日(日) 18:00~19:10
 - (2) 場所 兵庫県神戸市灘区王子町2-1 関西学生アメリカンフットボール連盟会議室(神戸王子スタジアム内)
 - (3) 対象者 第69回日本選手権出場対象チームメディカルスタッフ
 - (4) 出席者 12チーム 21名

14) 受講者推薦(日本体育協会公認スポーツドクター、スポーツデンティスト及びアスレティックトレーナー養成講座)

定款第5条第1項第5号に関連する事業として、日本体育協会が主催するスポーツドクター養成講座及びスポーツデンティスト、アスレティックトレーナー養成講座の受講生を推薦した。推薦に当たっては、安全対策委員会が、受講希望者の中から日本体育協会の受講者選考基準をもとに合格するものを選考した。

15) アメリカンフットボールに適した競技場の設置促進

定款第5条第1項第6号に関連する事業として、各地の自治体等が球技場を設置する情報収集を心掛けているが、平成27年度においては実現に結びつくような成果は得られなかった。

16) CFO会議への競技規則委員派遣・参加

定款第5条第1項第7号に関連する事業として、全米大学体育協会(NCAA: National Collegiate Athletic Association)の公式規則変更、公式規則適用の状況を正確にかつ迅速に把握するために、米国CFO(College Football Officiating LLC)が主催するクリニック(平成28年1月25日・26日開催)に、競技規則委員長を派遣した。

17) WEBサイトによる情報発信

定款第5条第1項第8号に関連する事業として、JAF A専用のWEBサイトを活用して、国際試合における日本代表チームの活動、JAF Aが主催する日本選手権ライスボウルの出場チーム紹介及び試合結果、JAF Aの各委員会の活動に関する情報を発信した。

また、昨年度開設したフットボールアカデミーの「安全対策」のページにおいて、「頭部外傷とその予防」、「頸部外傷とその予防」、「熱中症とその予防」ならびに「脳震盪への対応とその予防」に関する詳細情報を掲載した。

18) 殿堂顕彰

定款第5条第1項第9号に関連する事業として、平成25年度に制定した殿堂顕彰規程に基づき、殿堂顕彰委員会を組織し、平成26年度に実施した殿堂顕彰候補者の推薦依頼(平成26年7~9月)、一次候補者リストの作成(平成26年10月)に引き続き、一次候補者の追加調査ならびに二次選考を行い、平成27年度第4回理事会(平成27年11月14日開催)において、11名の殿堂顕彰者を決定した。11名の内訳は、指導者表彰5名、審判員表彰2名、特別表彰4名であった。なお、競技者表彰については、引き続き選考基準の制定などの作業を継続することとした。

平成28年1月3日の日本選手権ライスボウル会場にて、上記11名の殿堂顕彰者の発表と表彰式を実施した。

また、公益財団法人キープ協会のポールラッシュ記念館内に設置した日本アメリカンフットボールの殿堂の展示物更新、富士通スタジアム川崎の展示コーナーへの展示物選定及び貸出し等を行うとともに、10月17~18日、同協会が主催する八ヶ岳カンティーフエアに参加してフラッグフットボール、チアリーディング等の体験イベントを実施した。

19) 関係団体・機関との情報交換・連携

定款第5条第1項第10号に関連する事業として、国際アメリカンフットボール連盟(IFAF)、公益財団法人日本体育協会(JASA)、公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)、独立行政法人日本スポーツ振興センター(JSC)、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構(JADA)、公益財団法人日本スポーツ仲裁機構、一般社団法人日本トップリーグ連携機構(JTL)など関係団体・機関と密に情報交換を行い、連携して活動した。

(1) 国際アメリカンフットボール連盟(IFAF)

平成26年12月、シニア世界選手権スウェーデン大会の実質的な責任者であるトミー・バイキングIFAF会長が休職となったことから、IFAF上席副会長金氏眞(JAF A専務理事)がIFAF定款の定めに基づきIFAF会長代行に就任した。

平成27年7月17日、第5回IFAFシニア世界選手権の開催地であるオハイオ州キャンントン市にてIFAF総会が開催され、Roope Noronen氏(フィンランド)がIFAF会長に、Minette Rogner女史がIFAFセクレタリーに選出された。しかし、その後バイキング元会長と彼を支持するフー

バー氏(ドイツ)が中心となってIFAF分裂に向けた活動を活発に行っている。JAFはアメリカ、カナダ、メキシコ、オーストリア、オーストラリアなどの主要国と協調してIFAFの正常化に向けて努力中である。

(2) 公益財団法人日本体育協会 (JASA)

日本体育協会公認スポーツ指導者資格のうち、アメリカンフットボール指導者資格の認定業務を共同で実施するとともに、有資格者の義務研修を実施して資格保有者の資格更新を促した。

また、スポーツドクターならびにアスレティックトレーナーの養成講座の受講生候補者を公募のうえ選任して推薦した。

(3) 公益財団法人日本オリンピック委員会 (JOC)

JOC総務委員会に浅田会長が、選手強化本部会には金氏専務理事がそれぞれ委員として出席した。JOCが主催する数多くのプロジェクトならびに会合には、業務執行理事が中心となって対応した。また、JOCからのアンケート調査に協力し回答した。

(4) 独立行政法人日本スポーツ振興センター (JSC)

JSCの助成金事業に応募し、基金助成事業として第5回IFAFシニア世界選手権に日本代表チームを派遣、くじ助成事業としてJAFフットボールアカデミー事業(スポーツ教室スポーツ大会開催事業)ならびにドーピング検査事業を実施した。また、JSCからのアンケート調査に協力し回答した。

(5) 公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 (JADA)

三大ボウルゲーム(甲子園ボウル、ジャパンエクスボウル、ライスボウル)でのドーピング検査を、日本アンチ・ドーピング機構の協力を得て実施した。また、JADAからの求めに応じて、JAFアンチ・ドーピング規程を改訂した。

(6) 公益財団法人日本スポーツ仲裁機構 (JSAA)

JSAAから、JSAAによる仲裁の自動応諾条項採択を依頼されており、自動応諾条項採択に向けた準備として、日本代表チームの選手選出基準の作成に着手することとした。また、JSAAが主催するセミナーなど、JSAAの活動に参加協力した。

(7) 一般社団法人日本トップリーグ連携機構 (JTL)

Xリーグ(社会人アメリカンフットボール協会)が加盟する日本トップリーグ連携機構の評議員会に浅田会長が、理事会に金氏専務理事がそれぞれ評議員ならびに常務理事として参加し、JTLメンバーのXリーグとともにNF(統括団体)の立場から日本における球技スポーツ競技の発展に係る事業に協力参加した。

以上

II 内部統制体制に関する決議

平成27年度は、内部統制体制について以下の決議を行った。

平成27年度第1回理事会 (平成27年5月10日)

1) JAF A 就業規則

平成27年度第4回理事会 (平成27年11月14日)

2) JAF A アンチ・ドーピング規程

3) JAF A 個人番号及び個人情報の保護に関する基本方針

平成27年度第5回理事会 (平成28年3月19日)

4) JAF A 個人番号及び個人情報の保護に関する基本規程

以上

附属明細書

重要な事項は、すべて事業報告に記載した。